

ガンブルー処理の方法

バーチウッドのガンブルー液を使ったガンブルー処理の方法を説明します。



ガンブルーにはホットブルーと言われるメッキ工場などで行われる高温処理と、個人が常温にて簡易で行なえるコールドブルーがあります。

ここではコールドブルーを美しく行なう方法を紹介します。

まずは容易するもの。

- ・バーチウッドのスーパーブルー液
- ・スチールウール (台所の洗浄などに使われるスチール繊維のタワシ)

繊維が細いもののほうが扱いが楽です。

洗剤が練りこまれていないことを確認して購入してください。

洗剤が練りこまれているものを乾式で使うと石鹼カスの粉塵が舞い上がります。

ゴールドファクトリー式のガンブルー処理ではスチールウールはほとんど使いませんが、色ムラができたときのため、一応持っておきます。

- ・ヒートガン

より美しく仕上げるために、ヘッドを暖めます。無くても問題ありません。

ヘッドを暖めるために使います。他のものでも代用可能ですが、

ガスバーナーなど直火で暖めるとヘッドが汗をかきます (水滴が発生します)。

この水滴が蒸発する時にヘッドが錆びますので注意が必要です。

- ・ビニール手袋

手あれ防止のために使います (右手のみで充分です)。

- ・軍手

暖めたヘッドを持つために使います。左手のみで充分です。

・ 気化性防錆剤

腐食の進行を抑え、作業効率をよくするために使います。無くても問題ありません。

オイルなどでも代用可能ですが、一度オイルを塗ってしまうと、
ペイントする場合はペンキが固まらなくなります。

・ オイル

当社製品の Sword Oil (ソードオイル) がお勧めです。

特に一番最初に塗るオイルは鉄の内部まで浸透し、長持ちします。

・ アセトン

一番最初にヘッドについた汚れや油分を脱脂するために使います。

他のもので代用して頂いても結構です(無くても問題ありません)。

1、最初にアセトンなどの溶剤を用いて油分の脱脂を行います。



結局のところガンブルーの美しさは下地の美しさです。

美しいガンブルーはガンブルーする前の研磨や磨きの段階で決まってしまう。

綺麗な青を発色するためには下地は鏡面でなければなりません。

下地の目が粗いとガンブルーの発色はより黒くなります。

特に、今回使用するバーチウッドの中でもスーパーブルーというものは、青く発色します(その代わり、皮膜は薄く弱い)。

ガンブルーは錆びです(酸化皮膜)。

油分があると錆びは発生しづらくなりますので、きちんと脱脂して下さい。

脱脂後は手袋を使い、直接触らないのがいいと思います(手の油分の付着を防ぐため)。

2、ティッシュペーパーを硬くたたみ込み、ガンブルー液を少量染みこませます。



この時、必ずティッシュペーパーを使って下さい。
トイレットペーパーは水分に溶けるので駄目です。
布生地はたたみ込んでも、硬さが出ないので駄目です。

3、ガンブルーを染みこませたティッシュをテーブルに押し付け馴染ませます。



ティッシュにガンブルーが付いている（乗っている）状態と、ティッシュにガンブルーが染みこんでいる状態は、全く違う状態です。

ティッシュにガンブルーが付いている状態の場合、ヘッドにガンブルー液が直接ついてしまい、いきなり化学変化が始まり、強く反応し、皮膜が付きすぎて色ムラになります。

ティッシュにガンブルーがよく馴染んで、染みこんでいる場合、ヘッドにはガンブルーの湿気が当たり、時間を掛けて変色し始めます。

この後、ガンブルー液の染みこんだティッシュでヘッドを擦ります。



この時、ティッシュは常に動かしている状態で、少しずつ色に変色していくことを確認してください。

いきなり変色し始める場合は、ガンブルー液の付け過ぎです。

ガンブルー液を付け過ぎた場合、皮膜が分厚く付き、色むらとなります。

その時はスチールウールで軽く擦り、色ムラを取り除くのですが、できればスチールウールは使わないで
すむように、ゆっくり時間を掛けて変色させるのがいいと思います。

4、ヒートガンでヘッドを十分に暖めます。



ここがポイント！

もともとガンブルーというのは何百度という高温に熱して処理するものでした。

それをこのバーチウッドというメーカーが常温で処理できるガンブルー液を開発したことにより手軽に自宅
でガンブルーができるようになりました。

同社の説明書には「ガンブルー処理をする前にコールドウォーターでよく洗って下さい。」と書いてあり
ます。

このコールドウォーターとは、ホットウォーター（高温水）ではなく、コールドウォーター（常温水）で

可能になったという意味で、氷水等で冷やすという意味ではありません。

ヘッドが冷えた状態でガンブルーを塗り、スチールウールで擦るとガンブルーがズルッと剥がれてしまいます。

十分にヘッドが暖まっていると、少しくらい強くスチールウールで擦ってもガンブルーは剥げません。



手で持てるか持てないかくらいまで暖め、温度が低くなってきたらまた暖めるというのを繰り返しながら、ガンブルーを塗っていきます。

その為、左手には軍手をし熱くなったヘッドを持ち、右手はゴム手袋をして、ガンブルーが直接手に付かないようにします。

5、フェース面 バックフェース ソール その他の順番でブルーイングします。



ブルーイングしていく順番が大事です。

比較的ネックは簡単で、ティッシュへのガンブルーの塗布量が多少多すぎても、ネックはスチールウールを掛けると容易に綺麗になるので最後に処理します。

ガンブルーの添付量が多いとムラになりやすく難しいのは、バックフェースとソールです。

フェース面は繊細な処理ではありませんが、重ね塗りが必要になります。

まずはフェース面にガンブルーをし、スチールウールで余分を取ることを繰り返し、塗り重ねると共に、ティッシュにガンブルーを馴染ませます。

一番最初にフェースにガンブルーをして、ティッシュを作ることが大切です。



つぎに、バックフェース ソールの順番でガンブルーしますが、フェース面をガンブルーする際に作ったティッシュを使います。

ティッシュにはほとんどガンブルーをつけず、すでに染みこんでいる分だけでゆっくりと反応させます。

特にソール面はガンブルーの量が多いと、ムラになります。

薄く、ゆっくり、ガンブルーを少量使い反応させると、画像のような美しいブルーになります。



フェース、バックフェース、ソールが終わったら、あとは比較的簡単です。

新しいティッシュで、少し多目にガンブルーを付けて塗りこんで構いません。

6、気化性防錆剤に漬けて、化学反応を止めます。



ガンブルーは錆びで、ガンブルー液は錆びさせる薬品です。

ガンブルーの皮膜は防錆の役目をしますが、ヘッドに残っている薬品は錆びを進行させ続けます。

2, 30分、気化性防錆剤につけて、中和して錆びの進行が止まるのを待ちます。

この処理をしないと、数時間後には折角の美しいブルーが茶色くなってしまいます。

落ち着いたら、色入れをし、オイルを塗って完成です。

最終的な仕上げですが、オイルを塗り、シュリンクラップ(封じる)をして終わりです。

一度、オイルが染み込んで落ち着いてしまえばもう錆びませんが、それまでの間は非常に錆びやすい期間です。

包丁でも刀でもそうですが、砥ぎ上げた直後が一番錆びやすい状態です。



色入れをする場合の注意ですが、夏場の湿度60%以上という状況下では

ペンキが乾く前に間違いなく錆びてしまいます。

とはいえ、油を塗ってしまうと、ペンキが油と混ざって乾きづらくなります。

乾かしている間は防湿庫や除湿機のそばに置いておくなどの注意が必要です。

ガンブルーを塗るとき、液が鉄に反応し黒い皮膜を作りますが、液の量が多いと皮膜が厚く付きすぎ、塊

のようになります。

これをスラグと呼ぶのですが、このやり方ではスラグはほとんど出ません。

ガンブルー液の量を極端に少なくし、温度も高めでゆっくり時間を掛けて反応させるのでスラグはでません。

その為、スチールウールで擦るという作業はほとんどありません。

最後に定着を強くさせるために、スチールウールで一通り、擦って鍛えて終わります。

説明が難しいので徐々に写真を撮ってみましたのでご覧下さい。



まず、ガンブルー液を少量染みこませたティッシュを硬くたたみ、ヘッドに擦りつけますが、ガンブルーは少量で、湿めっている程度です。

その為、ほとんど反応しません。

そこで、じっと我慢ですね。茶色っぽくなったら、次の段階が青です。

ものすごく綺麗な青、透明度が高く、グリーンに近い状態です。



更に、時間を掛けて、ガンブルーが反応するのじっくりと待ちます。

色ははしはしが茶色、中心部は青、その中間は赤に近い感じ。

ちょうど焼けたバイクのマフラーのような発色をします。

この辺で辞めたくなるほどの美しさですが、この状態は非常に皮膜が薄く、強度も弱いです。



全面が綺麗なブルーになったら終了ですが、念入りに塗り重ねます。このあたりで、焦ってガンブルー液の量を増やすとスラグが発生します。

ですが、ガンブルー液は皮膜が厚くなるにつけて量を増やしていかないと反応しなくなってきます。

熱をかけて、徐々に皮膜を厚くしていくと、丈夫な皮膜ができます。

逆に、急いで分厚い皮膜を作ってしまうと、スチールウールで擦っただけで、ベロッと剥がれてしまいます。

ゆっくり作った皮膜はスチールウールで強めに擦っても剥がれません。

おそらくこのやり方だと、スラグはあまり発生しないものと思われます。